

連載 (90)

いのち ひろば

毎月1回、中旬の水曜日に掲載

今月のひとこと
昨年より2~18歳の方に新しいインフルエンザワクチンが出ました。両側の鼻に1回づつ噴霧するワクチンです。注射の痛みが苦手な方、2回受診して注射を受ける時間が無い方にお勧めです。

知っておきたいインフルエンザワクチンの種類

小児科医が説明する生ワクチンと不活化ワクチンの違いと、ワクチンの接種方法について

遠藤 徳之



原市に生まれ。静岡聖光学院高等学校卒業。林大学医学部卒、順天堂大学小児科入局。山梨県立中央病院、日野市立総合病院、多摩南部地域病院を経て平成16年医療法人社団浜町小児科医院。平成23年度より小田原医師会理事に就任。資格は、小児科専門医、インフルエンザワクチンコントロールクター認定医、日本医師会認定健康スポーツ医。

インフルエンザウイルスの種類と特徴

インフルエンザは毎年流行する感染症であり、その原因となるウイルスには、A型とB型の2つの種類があります。A型ウイルスはさらにH1N1型とH3N2型に分類され、B型ウイルスも山形系統とヒクトリア系統の2つがあります。これらのウイルスは毎年変異を繰り返して、新しい株が生まれるため、毎年異なるワクチンが製造される必要があります。

小児と高齢者のインフルエンザ罹患率・死亡数の特徴

COVID-19流行前のシーズンでは、約半数が19歳以下でしたが、2022/23シーズンでは19歳以下が約7割に上がりました。以前から若者が罹りやすい傾向が特によく、30歳以下で占める割合が増えています。また、14歳以下のインフルエンザ罹患率の死亡率は6.56%と死亡率は高齢者の方が高くなります。(60代以上のインフルエンザ罹患率の死亡率は16.67%)

ワクチン接種の効果と重要性

インフルエンザワクチンの接種は重症化予防に効果的です。特に高齢者や基礎疾患を持つ人にとって、インフルエンザは命に関わる病気になる可能性があります。ワクチンの接種が強く推奨されています。研究によれば、65歳以上の高齢者では、ワクチン接種により34~55%

インフルエンザ予防接種には生ワクチンと不活化ワクチンがあり、それぞれに特徴と利点があります。(表1)

☆ 生ワクチン

生ワクチンは、弱毒化されたウイルスを含むワクチンで、経鼻噴霧タイプ(フルミスト)として昨年より利用されています。注射を嫌がる小児にも適しています。注射を嫌がる小児にも適しています。

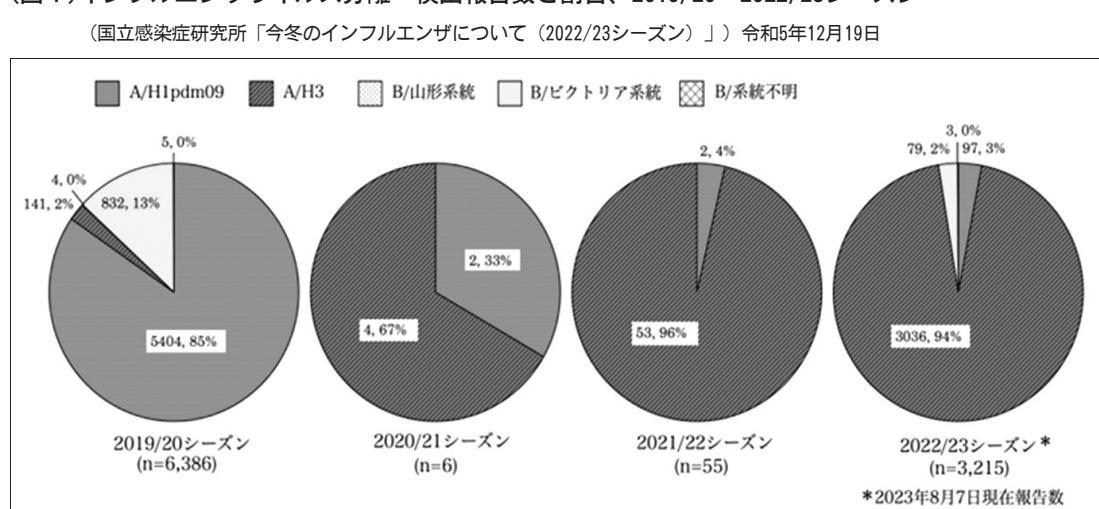
☆ 不活化ワクチン

不活化ワクチンは、ウイルスを殺して毒性を失わせた状態のもので、主に注射によって接種されます。免疫をつけるためには複数回の接種が必要ですが、特に高齢者や基礎疾患を持つ人にとって重症化のリスクを減らす重要な予防策とされています。費用は施設によって異なりますが、1回約4千円前後です。

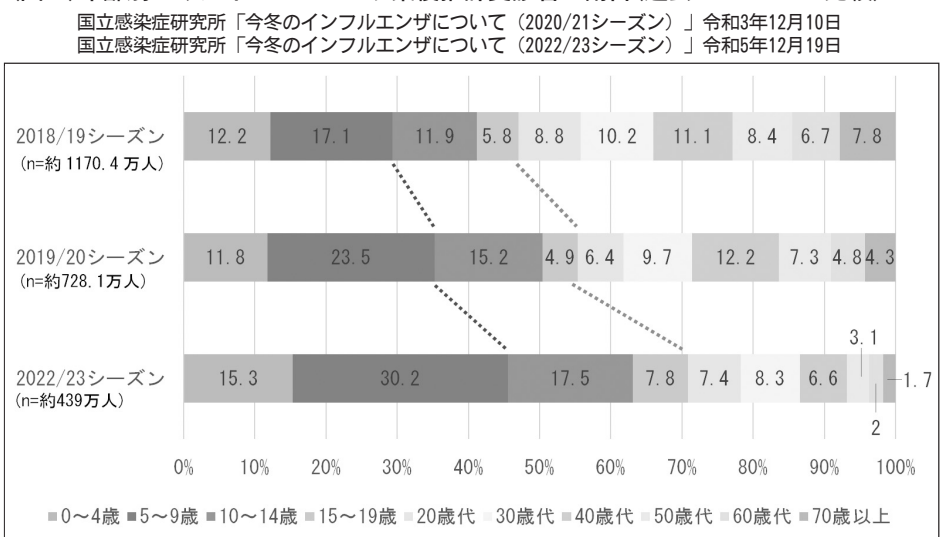
☆ 不活化ワクチン

6ヵ月以上のすべての人に接種が推奨されています。毎年流行するウイルス株に合わせて製造されるため、定期的接種が重要です。ワクチン自体が入っていないため、軽くなることはありません。一般的には軽度の副反応のみみられることがありますが、重篤な副作用は稀です。費用は施設によって異なりますが、1回約4千円前後です。

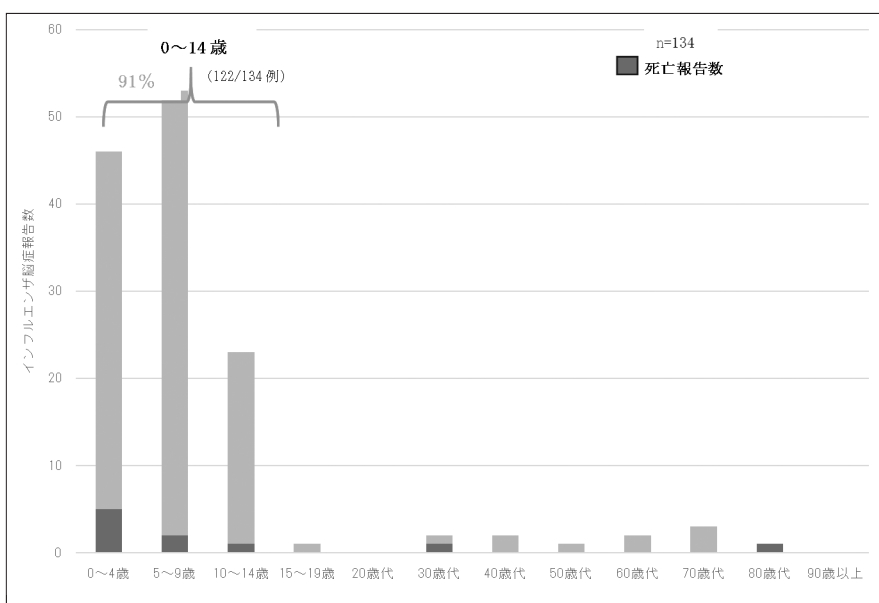
(図1)インフルエンザウイルス分離・検出報告数と割合、2019/20~2022/23シーズン



(図2)年齢別にみたインフルエンザ累積推計受診者の割合(過去3シーズンの比較)



(図3)年齢別および届出時死亡の有無別インフルエンザ脳症報告数(2019/20シーズン:2019年第36~52週)



☆次回は10月中旬に「防災について~仮設救護所等~」を掲載(予定)です。

(表1) インフルエンザワクチンの生と不活化ワクチンの違い

	フルミスト(経鼻生ワクチン)	従来のワクチン(注射不活化ワクチン)
メリット	● 痛くない ● 1回の接種で終了 ● 多少の鼻水は接種出来る	● 日本での予想流行株で作成 ● 使い慣れている ● 生後6ヵ月から成人まで可能 ● 接種量はしっかり確保
デメリット	● インフルエンザ様症状があることがある(1~10%) ● 接種量が少なく必ず接種出来るとは限らない ● 2歳から18歳未満	● 痛い ● 12歳までは基本的に2回接種 ● 時に注射による顔の腫れ
予防効果	強いが必ず発症予防出来るわけではない	生ワクチンほど十分な免疫を得にくい為、12歳までは2回接種が必要となる
予想流行株がはずれたワクチンになった場合	重症化予防は期待できる	予防効果は弱くなる
コスト(金額は、医療機関により異なる)	8,000円前後/回	4,000円前後/回
他の予防接種との同時接種	可能	可能
接種を控える人	● 気管支喘息 ● セラチンアレルギー ● 免疫不全の方(ステロイド内服中など) ● 周囲に妊娠さんがいる ● 周囲に免疫不全者がいる	● 重症の卵アレルギー ● 過去にインフルエンザワクチンでアナフィラキシーあり

どちらを選ぶべきか
6ヵ月からの歳未満、高齢者や基礎疾患を持つ方は、不活化ワクチンが推奨されます。2歳から19歳未満の特に注射を嫌がる方や、2回受診して注射を受ける時間が無い方は、生ワクチン(フルミスト)が適しているかもしれません。それぞれのワクチンには利点と欠点があるため、個々の健康状態やライフスタイルに応じて選択することが重要です。接種前には医師と相談することをお勧めします。

小田原市休日夜間急患診療所

休日や夜間に急に発症した方の診療を目的とした一次救急の医療機関です。軽症の患者様を対象としていますので、症状によっては、重症患者様を受け持つ「二次救急病院」へ受診していただくことになります。応急処置を目的としていますので、受診後はかかりつけ医を受診するなど適切な医療を受けてください。

〒256-0816 神奈川県小田原市酒匂2-32-16
☎0465-47-0823 駐車場(第1~4)あり
<https://www.odawara.kanagawa.med.or.jp/nighttime/>

診療科と受付時間	平日(夜間) 午後7時~同10時	日曜・祝日(昼間) 午前8時半~同11時半 午後1時~同3時半	土曜・日曜・祝日(夜間) 午後6時~同10時
内科	○	○	○
小児科	○	○	○
耳鼻咽喉科		○	
眼科		当番日のみ	
歯科		日曜・祝日(昼間) 午前9時~同11時半 午後1時~同3時半	

小田原市 箱根町 真鶴町 湯河原町 の方対象

小田原医師会地域医療連携室では、医師による電話相談を行っています。無料です。事前にお電話ください。

小田原市休日夜間急患診療所の体制について

9月

日	月	火	水	木	金	土
	13:00~14:00 内科 循環器科	13:00~14:00 整形外科		13:30~14:30 内科	13:00~14:00 小児科	14:30~15:30 産婦人科
7	8 13:30~14:30 耳鼻科	9 13:00~14:00 内科	10 14:30~15:30 小児科	11	12	13
14	15	16	17 13:30~14:30 内科	18	19 13:15~14:15 皮膚科	20 13:30~14:30 内科 神経内科
21	22	23	24	25	26 13:30~14:30 内科	27
28	29	30 13:00~14:00 内科				

〈上記の問合せ先〉
小田原医師会地域医療連携室
☎0465-47-0833
月曜~土曜(日曜、祝・休日、12/29~1/3休み)
午前9時~正午/午後1時~午後5時

10月

日	月	火	水	木	金	土
				2 13:30~14:30 内科	3 13:00~14:00 小児科	4 13:30~14:30 内科 神経内科
5	6 13:00~14:00 循環器科	7 13:00~14:00 整形外科	8	9	10 13:30~14:30 耳鼻科	11 13:30~14:30 精神科
12	13	14	15 13:30~14:30 内科	16	17	18
19	20	21 13:00~14:00 内科	22	23	24 13:15~14:15 皮膚科	25 14:30~15:30 産婦人科
26	27	28 13:30~14:30 内科	29	30	31 13:30~14:30 内科	

医療機関検索は
小田原医師会のサイト
から利用できます

小田原医師会より住民の方々へ

<https://www.odawara.kanagawa.med.or.jp/>